

東日本大震災後の訪日観光意識（平成 25 年版）

—安全面の不安は残るものの、7割は日本旅行に対して前向き—

2013年12月12日 ㈱日本政策投資銀行 地域企画部
東北支店

<調査の概要>

- アジア 8 地域全体では、日本旅行の人気はトップクラスであり、前年調査に比べその人気は拡大している。
- 国内主要都市・観光地と比較すると、地方区分としての「東北」の認知度は 12.0%にとどまるものの、「仙台」の認知度は 31.2%に達する。世界遺産に認定された「平泉」のアジア 8 地域における認知度は 5.4%と低位。
- 前回調査と比較すると、地震による被害の復旧状況に関する不安や、地震の発生に対する不安は若干減少しているものの、放射能被害に対する不安は払拭されていない。対象地域別では、特に韓国と香港において放射能に対する不安や地震に対する不安の大きさが目立つ。
- 震災以降日本旅行を控えている層の約 6 割は、放射能による健康被害の心配を抱えており、適切な情報発信等による不安の払しょくが必要と考えられる。
- 一方で、「震災があったが、日本旅行は控えようと思わない」及び「震災直後は日本旅行を控えていたが、今はそう思っていない」とする日本旅行に対するポジティブな意向は、全体の 7 割程度に達するなど震災後も日本旅行に対する意向は積極的である。
- 被災地ツアーの存在については全体の約 4 割が「知っていた」又は「聞いた気がする」と回答。また、被災地ツアーについて「是非参加したい」又は「やや参加したい」と答えた層は、全体の約 5 割を占めているものの、前回調査から 1 割程度減少がみられる。引き続き、外国人旅行者に考慮した受入体制の整備やプロモーションの取組が必要と考えられる。

当行地域企画部では、東・東南アジア 8 地域（韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア）を対象として、インターネットによる訪日旅行者の観光意向調査を実施した。同調査は前年に実施した「アジア 8 地域・訪日外国人旅行者の意向調査」の続編となる。

本編は、その中から特に東日本大震災の影響にかかる質問項目につき東北支店にてまとめたものである。

<目次>

- 調査要領 …… p.2
- はじめに（震災関連以外の質問項目の回答状況） …… p.3-4
- 東日本大震災に関する問と回答状況 …… p.5-11
 - 問 1. 日本旅行ををするとして、不安な材料はありますか。
 - 問 2. 日本で起きた震災に関連して、あなたの日本旅行に対する考えは変化しましたか。
 - 問 3. 日本旅行で、震災後の被災地視察コースが整備され、自然災害の実態と被害の状況を学ぶ、又はボランティアをするといった行程のツアーが企画されています。あなたは、上記のツアーが企画されていることを知っていましたか。
 - 問 4. （問 3. 被災地ツアーについて）あなたは、上記のツアーに参加したいと思いますか。
- （参考）2011 年に日本で起きた震災に関連する事柄（地震、津波、原発事故など）を見聞きし、あなたはどう思いましたか。

・調査要領

- ① 実施時期：2013年10月8日～2013年10月25日
- ② 調査方法：インターネットリサーチ（外部委託） 有効回答先着各地域500、計4000を採用
- ③ 対象地域：韓国、中国（北京・上海）、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア

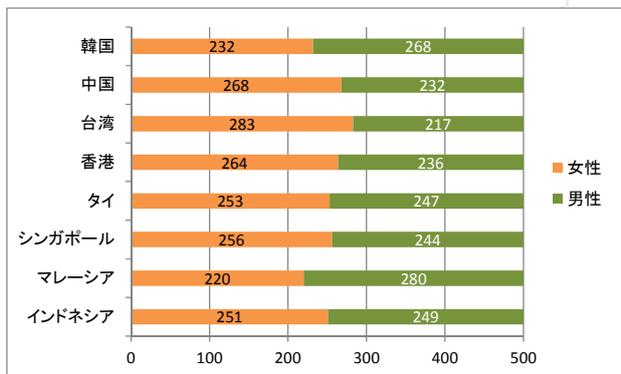
（注）シンガポールは今回調査より追加

- ④ 対象者：20歳～59歳の男女、かつ、海外旅行経験者

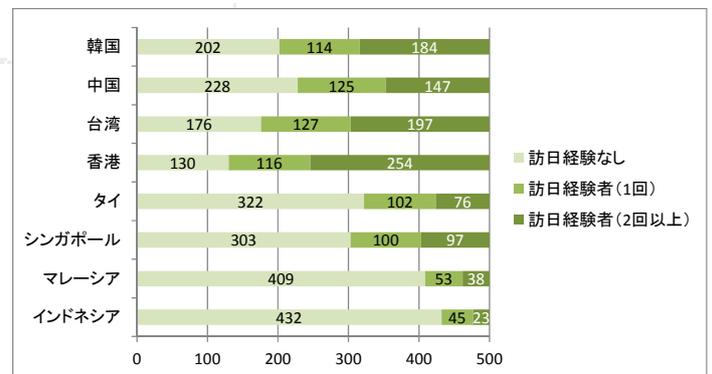
（注）中国-香港-マカオ間、マレーシア-シンガポール間、タイ-マレーシア間の旅行については、海外旅行経験から除く

- ⑤ 調査対象回答数（地域別・属性別）

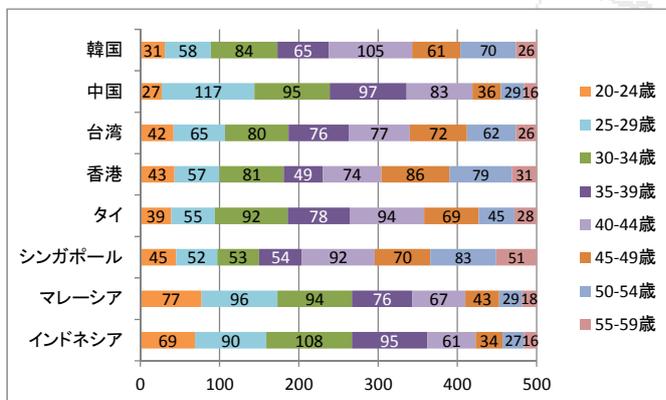
(a) 男女別



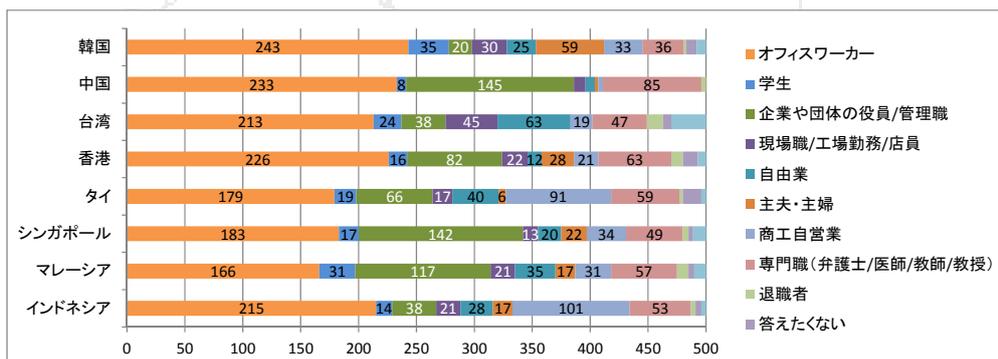
(b) 訪日経験別



(c) 年齢別



(d) 職業別



・はじめに

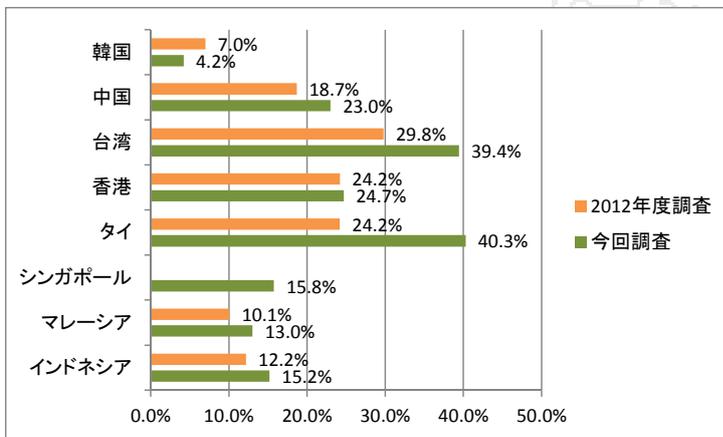
＜震災関連以外の質問項目の回答状況＞

当調査の回答傾向をみるご参考として、震災関連以外の質問の一部についての回答状況を掲載いたします。当調査の質問項目は多数あり、全体の回答状況については、当行発表資料「アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査（平成25年版）」（2013年12月3日発表）をご覧ください。

① 日本旅行の人気度（現在最も旅行したい国・地域のうち日本を選択した割合、回答は一つ）

⇒ 前回調査との比較では、韓国を除く全ての国で日本旅行人気は上昇している。

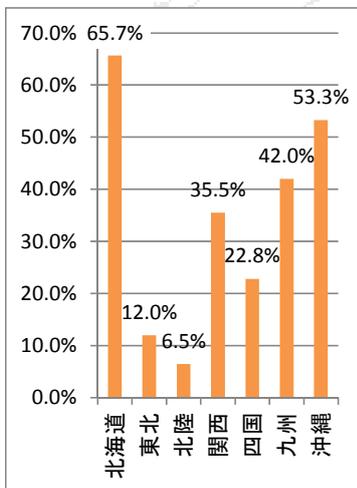
総じて日本への旅行希望は高く、特に中国・台湾・香港・タイにおける日本旅行人気の高さが伺える。



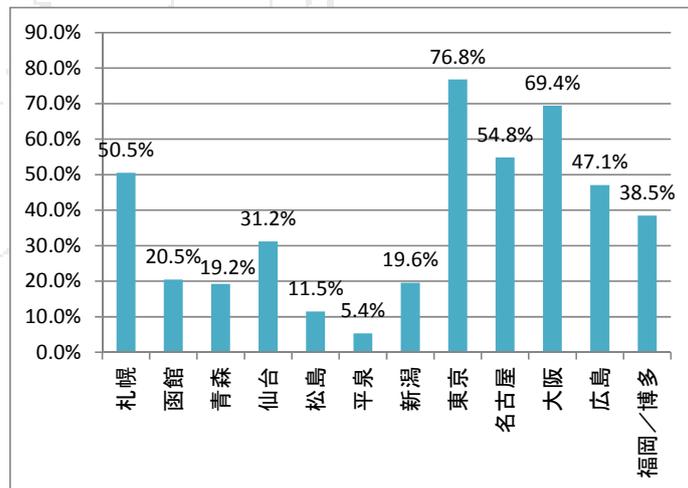
② 各都市・観光地の認知度※（回答はあてはまるものすべて）

⇒ 国内主要都市・観光地と比較すると、「仙台」を知っているとした割合は31.2%に達するものの、地方区分としての「東北」認知度は12.0%と低位で、「北海道」などは対照的な結果となっている。世界遺産に認定された「平泉」は、当アンケート対象地域における認知度は5.4%と低位。

(a) 地方区分



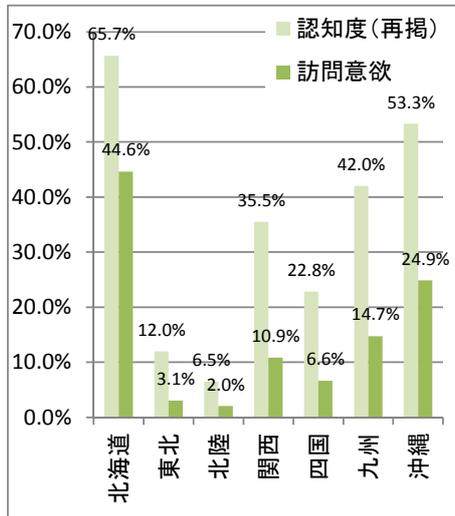
(b) 主要都市



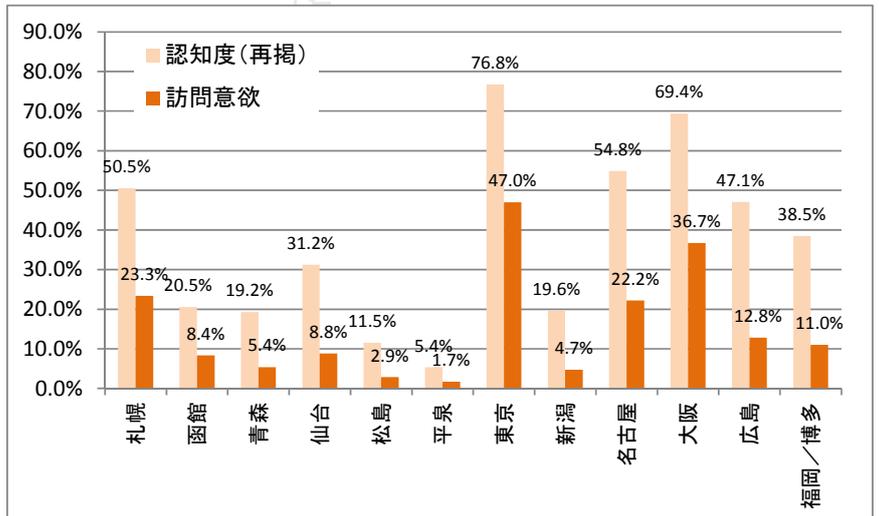
③ 各都市・観光地への訪問意欲（認知度との比較、回答はあてはまるものすべて）

⇒ 知っている都市・観光地のうち、実際に行ってみたい場所を聞いたところ、回答者のうち「東北」が3.1%、「仙台」8.8%、「青森」5.4%、「松島」2.9%、「平泉」1.7%と、いずれも他都市と比較して低位の水準にとどまっている。

(a) 地方区分



(b) 主要都市



＜東日本大震災に関する問と回答状況＞

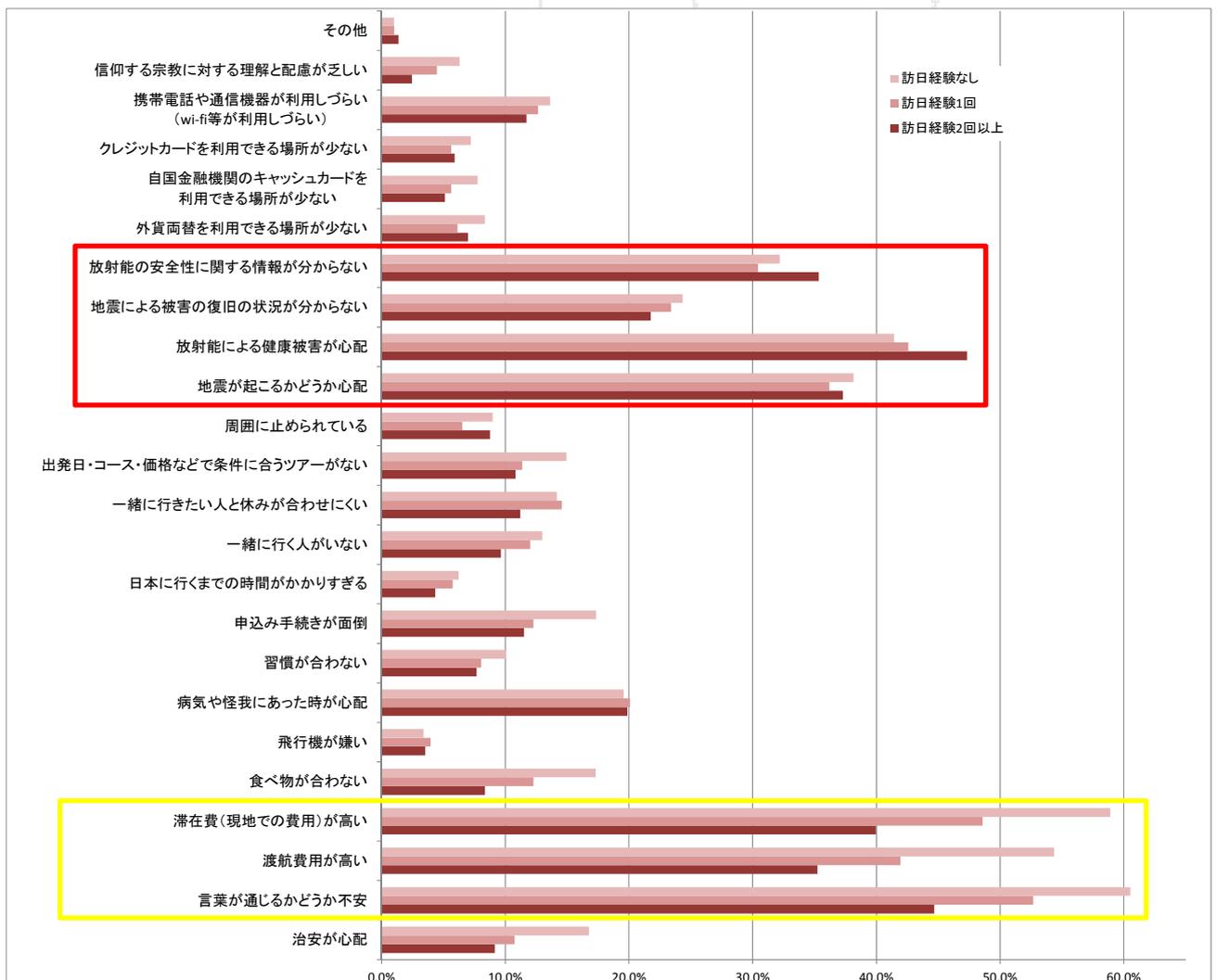
【設問】

- 問 1. 日本旅行をするとして、不安な材料はありますか。(回答はあてはまるものすべて)
- 問 2. 日本で起きた震災に関連して、あなたの日本旅行に対する考えは変化しましたか。最もあなたの意見に近いものをお選びください。
- 問 3. 日本旅行で、震災後の被災地視察コースが整備され、自然災害の実態と被害の状況を学ぶ、又はボランティアをするといった行程のツアーが企画されています。あなたは、上記のツアーが企画されていることを知っていましたか。
- 問 4. (問 3. 被災地ツアーについて)あなたは、上記のツアーに参加したいと思いますか。

問 1. 日本旅行をするとして、不安な材料はありますか。(回答はあてはまるものすべて)

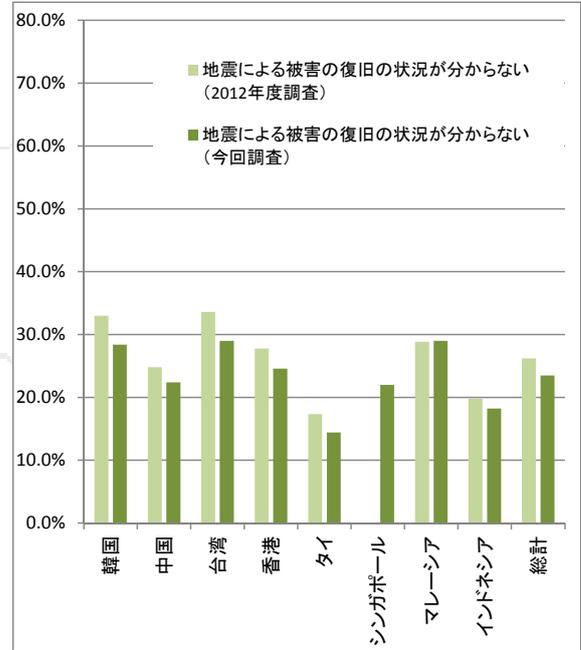
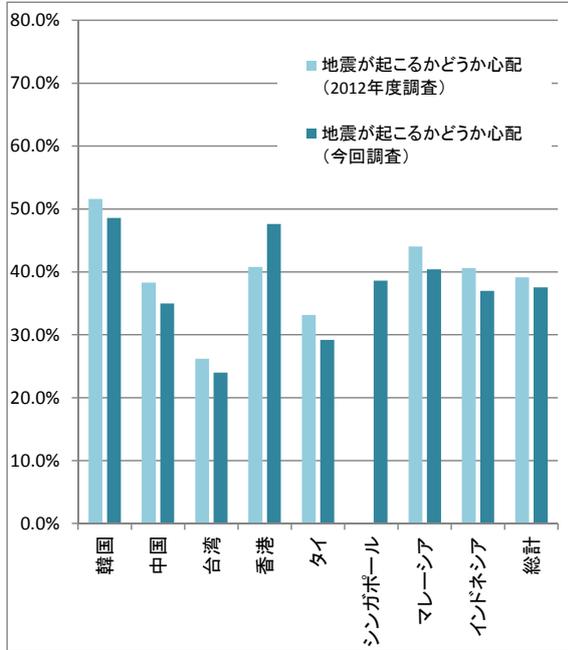
- 震災関連以外の不安材料としては、費用面、言葉の問題が多かったが、いずれも訪日経験が増すほど不安は和らぐものとなっている。
- 震災関連については、全体の4割が「地震が起こるか心配」・「放射能による健康被害が心配」と回答。訪日経験が増すごとに、費用面や言葉に対する不安は減る傾向にあるものの、放射能や地震に対する不安は必ずしも減少していない。
- 前回調査と比較すると、地震による被害の復旧状況に関する不安や、地震の発生に対する不安は若干減少しているものの、放射能被害に対する不安は払拭されていない。

① 訪日経験別回答状況 (回答の選択肢は①及び次項目②を同列で提示しています)

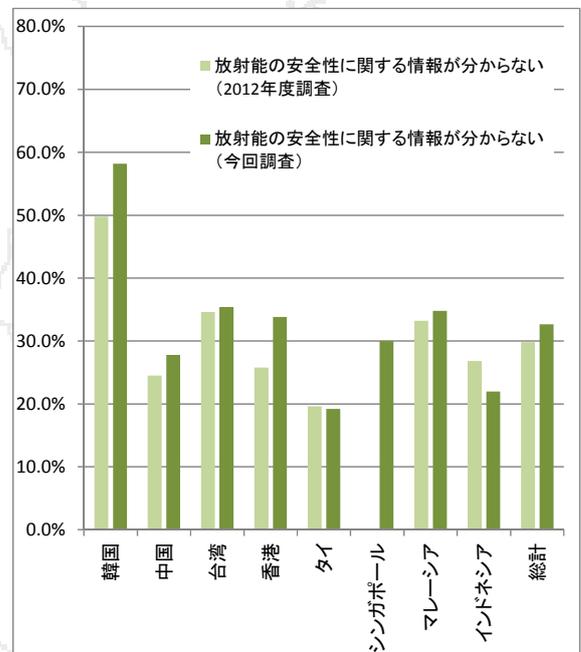
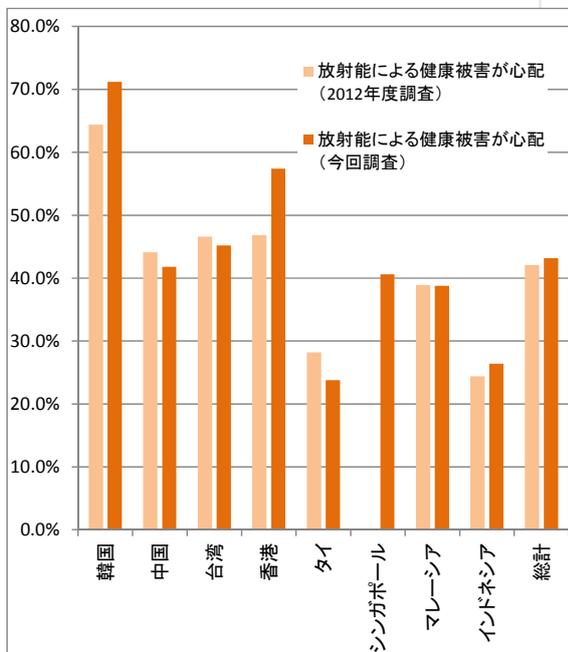


② 震災関連の選択肢への回答状況（回答の選択肢は前項目①及びこの②を同列で提示しています）

(a) 日本旅行に対する不安材料（地震関連）



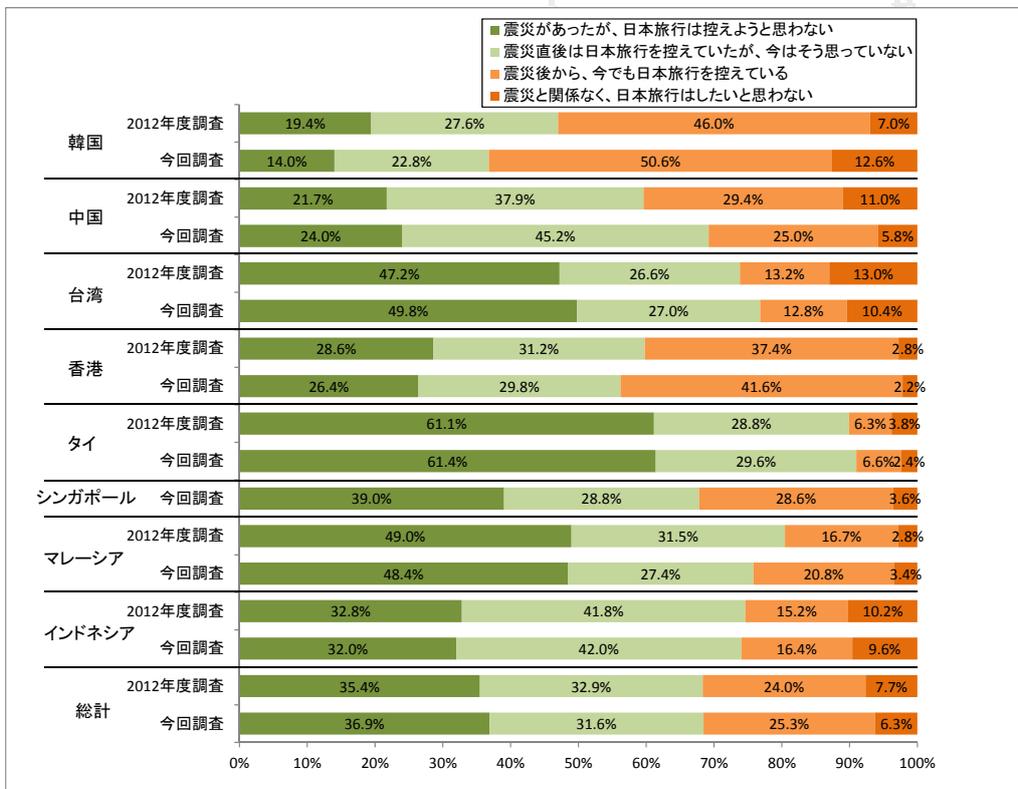
(b) 日本旅行に対する不安材料（放射能関連）



問2. 日本で起きた震災に関連して、あなたの日本旅行に対する考えは変化しましたか。最もあなたの意見に近いものをお選びください。(回答はあてはまるものすべて)

- ・「震災があったが、日本旅行は控えようと思わない」及び「震災直後は日本旅行を控えていたが、今はそう思っていない」とする日本旅行に対するポジティブな意向は、全体では7割程度に達する。
- ・対象地域別で見ると、特にタイ・マレーシア・インドネシア・台湾において、訪日旅行に対して積極的な意向が伺える。また、前年度調査との比較では、中国・台湾において訪日旅行意向について前向きな変化が見られた。
- ・震災以降日本旅行を控えている層の約6割は、放射能による健康被害の心配を抱えており、適切な情報発信等による不安の払しょくが必要と考えられる。

①対象地域別、調査時点別の回答状況



②日本旅行意向×旅行に対する不安材料

(震災後の日本旅行意向に関する回答各層のうち、日本旅行の不安材料として震災関連項目を挙げた割合)

横パーセント	サンプル数	地震が起こるかどうか心配	放射能による健康被害が心配	地震による被害の復旧の状況が分からない	放射能の安全性に関する情報が分からない
全体	4000	37.6%	43.2%	23.5%	32.7%
震災があったが、日本旅行は控えようと思わない	1475	29.8%	30.8%	17.9%	24.2%
震災直後は日本旅行を控えていたが、今はそう思っていない	1263	40.7%	42.9%	22.9%	31.1%
震災後から、今でも日本旅行を控えている	1012	45.6%	61.3%	33.6%	46.7%
震災と関係なく、日本旅行はしたいと思わない	250	34.8%	43.6%	18.8%	33.2%

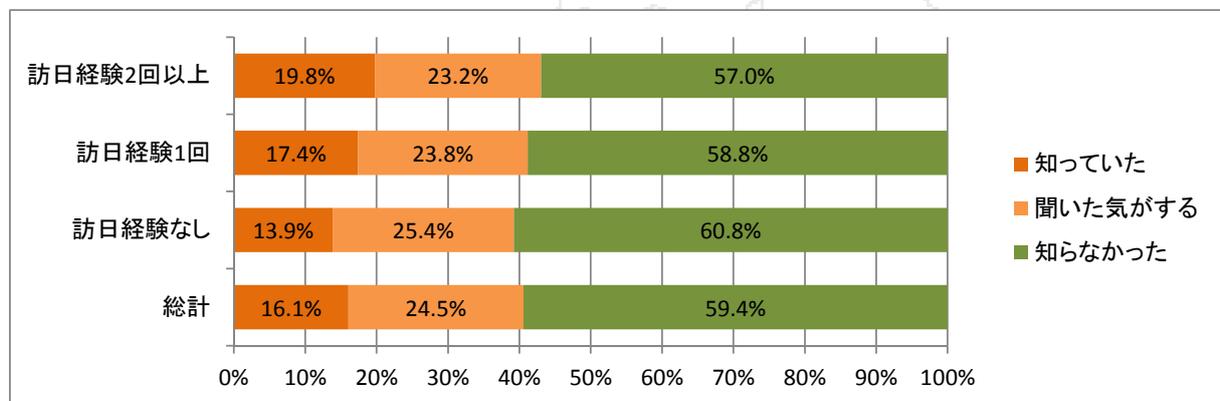
問3. 日本旅行で、震災後の被災地視察コースが整備され、自然災害の実態と被害の状況を学ぶ、又はボランティアをするといった行程のツアーが企画されています。

あなたは、上記のツアーが企画されていることを知っていましたか。(回答は一つ)

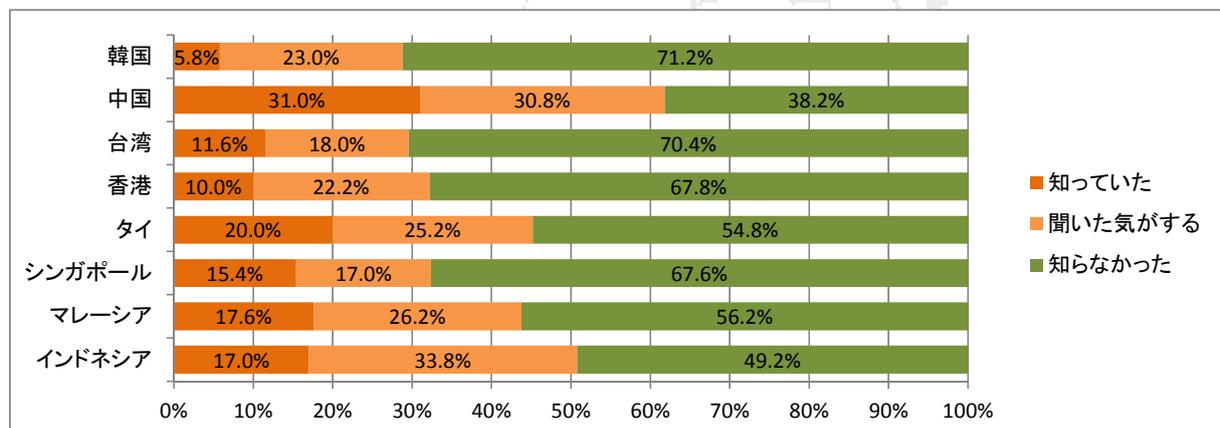
(このツアーは、被災地の自治体の了承を得ているものです。被災地は、津波被災地であり、原発災害の被災地ではありません。)

- 当行東北支店レポート「東北観光の現状と外国人観光客誘致のあり方」(2012年11月)では、外国人観光客に対する被災地ツーリズムの有望性を論じたが、被災地ツアーの存在について「知っていた」又は「聞いた気がする」とした層は全体の約4割であった。
- 訪日経験別では、訪日経験数が増えるほど被災地ツアーの認知度が増加する傾向にある。
- 対象地域を見ると、特に中国・インドネシア・タイ・マレーシアで被災地ツアーの認知度が高い。

① 訪日経験別の回答状況



② 対象地域別の回答状況



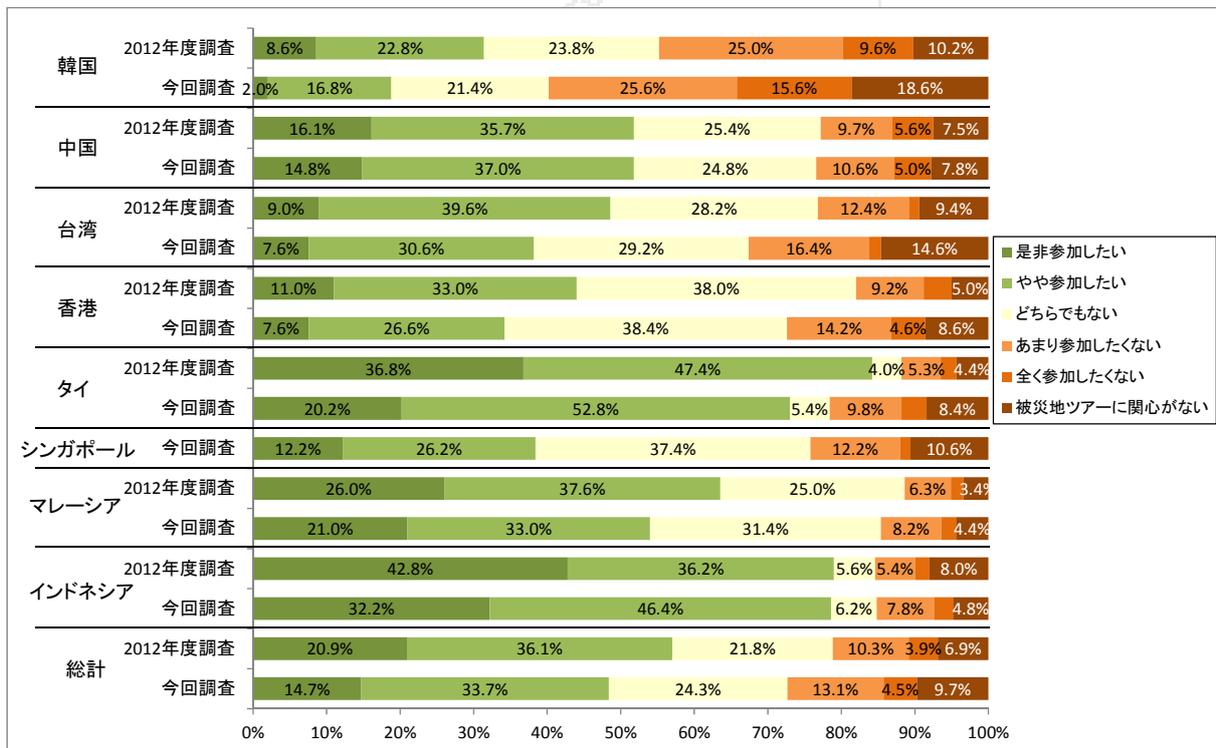
問4. 日本旅行で、震災後の被災地視察コースが整備され、自然災害の実態と被害の状況を学ぶ、又はボランティアをするといった行程のツアーが企画されています。

あなたは、上記のツアーに参加したいと思いますか。(回答は一つ)

(このツアーは、被災地の自治体の了承を得ているものです。被災地は、津波被災地であり、原発災害の被災地ではありません。)

- 被災地ツアーについて「是非参加したい」又は「やや参加したい」と答えた層は、全体の約5割を占めているものの、前回調査から1割程度減少がみられる。引き続き、外国人旅行者に考慮した受入体制の整備やプロモーションの取組が必要と考えられる。
- 対象地域別では、特にタイ・マレーシア・インドネシアの東南アジア地域において関心が高いものの、前回調査と比較すると中国・インドネシアを除く全ての地域について、被災地ツアーに対する関心が低下。

① 対象地域別の回答状況



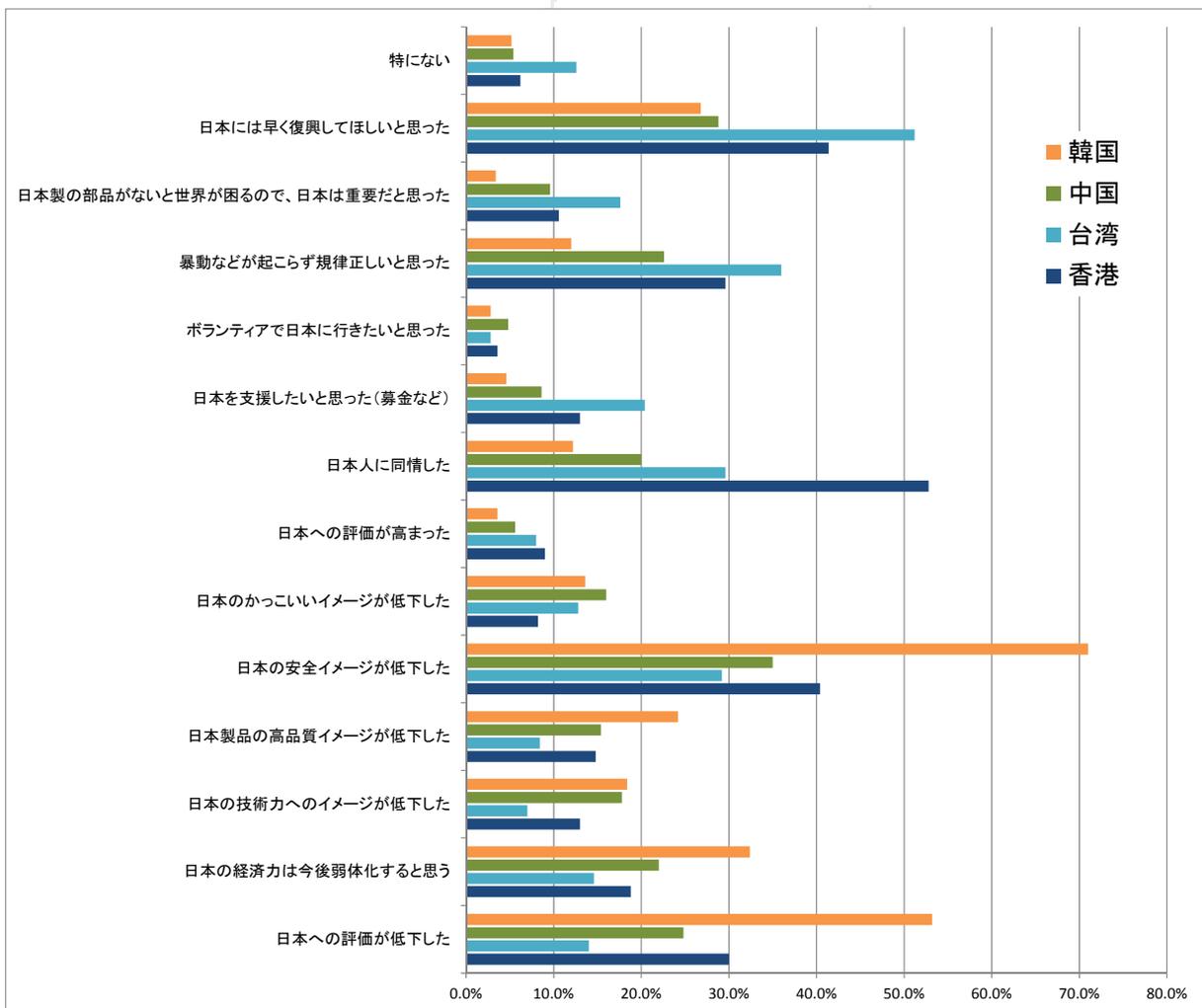
② 訪日経験別の回答状況



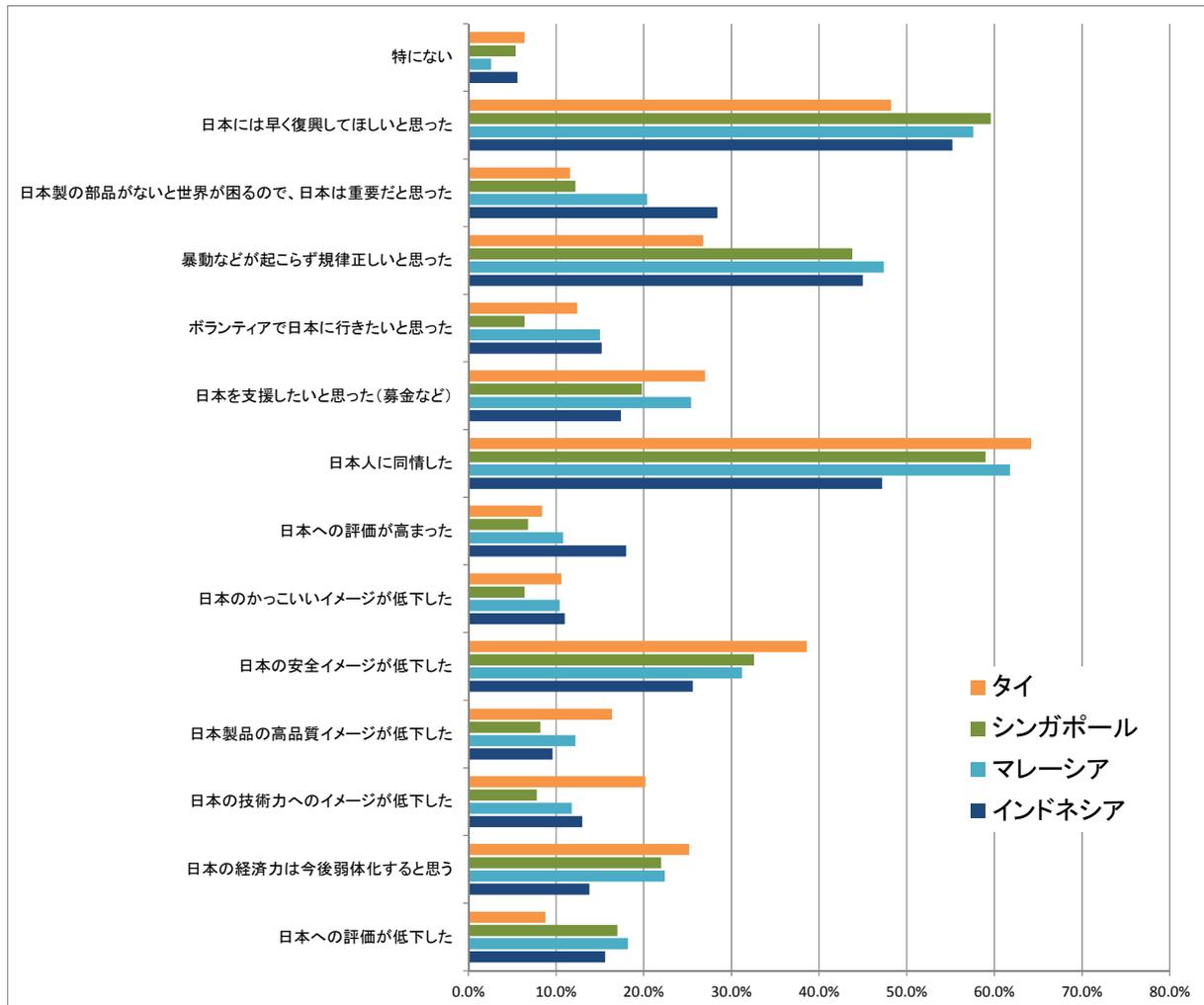
(参考) 2011年に日本で起きた震災に関連する事柄(地震、津波、原発事故など)を見聞きし、あなたはどのように思いましたか。(回答はあてはまるものすべて)

- タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアを中心に、「日本には早く復興してほしいと思った」「日本人に同情した」等、好意的な回答が多い。
- 一方、「日本に対する安全イメージが低下した」「日本の評価が低下した」等、ネガティブな回答も韓国等で目立つ。安全面に対する継続的な情報発信等により、早期のイメージ回復が必要なものと思われる。

① 対象地域別の回答状況 (韓国・中国・台湾・香港)



② 対象地域別の回答状況（タイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア）



DBJ東北経済ミニレポート 2013 No. 1
 ㈱日本政策投資銀行 東北支店 支店長 海津 尚夫 担当:企画調査課 電話 022-227-8182(担当:七倉)
 著作権©Development Bank of Japan Inc. 2013 当資料は、㈱日本政策投資銀行(DBJ)により作成されたものです。
 当資料に記載された内容について、特定の取引等を勧誘するものではなく、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。当資料のご利用に際しましては、ご自身の判断でなされますようお願い致します。
 当行の承諾なしに、当資料(添付資料を含む)の全部または一部を引用または複製することを禁じます。